

「働き方改革通信：Smile」は、「先生の Happy が子どもの笑顔をつくる」を取組姿勢とした「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」の進捗（達成目標の現状等）や各学校での取組を共有し、更なる取組の推進・充実につなげるために発行しています。

Topic



新春特別企画

①-1

鯉渕教育長インタビュー



教育長就任から 9 か月。学校訪問等を通じて、学校や教職員の様子を見てきた中で感じていることや「働き方改革の推進」に向けた思いをインタビューしました。教育長自身が実践している“ライフ・ワーク・バランス”についても聞いてみました。

Question ① 「働き方改革プラン」初年度、手応えはどうか？

子どもたちの笑顔を支える先生方は、
元気であってほしい

時代が大きく動いていく中、日本全体が「新しい働き方」を模索しています。学校も、先生方が元気に子どもたちと向き合えるように、また、よい人材に教職員を目指してもらえるよう、「働き方改革」は必ず実現しなければならぬと考えています。社会全体の機運が高まっている今は大きなチャンスです。教育委員会としては、プランにある 40 の取組を着実に迅速に実行し、学校を全力でサポートしていきます。



働き方改革を「見える化」をする

「働き方改革」に特効薬や明確な正解はないため、トライ＆エラーを繰り返し、自分たちなりの「働き方」を見つけていくことが大切です。この「働き方改革通信 smile」は、取組を「見える化」し、新しい見方や考え方のヒントになるように、親しみやすさや読みやすさを意識して編集しています。学校の困り感や「そうは言っても」というような現場の躊躇いや迷いの声もしっかり拾い、学校現場と一緒に考えながら、進めていきたいと思っています。

現場の声に事務局全体で耳を傾けていく

「職員室業務アシスタント」「部活動指導員」の配置拡充、現場から求めの声大きい「ICT 支援員」の配置、「児童支援・生徒指導専任教諭配置後補充の常動化」、「教科分担制推進のための非常勤配置」などもできるだけ早期に実現していきます。また、授業準備や校内の情報共有、学校と家庭との連絡の効率化を目指し、「総合学校支援システム」の構築も進めていきます。また、教育課程が変わっていくこの大きな節目の今、「働き方改革」の視点も踏まえながら、市主催行事の見直しも進めていきます。この「働き方改革」は、学校の「今までやってきた」や「慣性の法則」のような状態からいかに脱することができるかということが大事だと思っています。私は、学校はもっと「自由」になっていいと思っています。変えるべきところはどんどん変えていっていい。その際に重要になってくるのが、各学校がどれだけ骨太のビジョンを持てるかということかと。幹が確固たるものであれば、教育活動の優先順位は自ずと見えてくるはず。先生たちと子どもたちの限られた時間を、いかによりよい学びの時間に変えていくのか。そんなこともこの「働き方改革」には求められていると考えています。

「時間外勤務 80 時間超」というのは、やはり見逃すことができない働き方だと思っています。このラインはなんとしてでも無くしていくということ、事務局は勿論、各学校においても、強く意識してほしいと考えています。

制度と現場には乖離があることが常です。そこをどう埋めるのが我々、教育委員会の役目だと思っています。事務局全体として、今まで以上に、現場に寄り添い、現場の声や困り感をしっかり把握しながら、子どもたちのため、学校のための施策を進めていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

Question ② “ライフ・ワーク・バランス”のために気を付けていることは？



やはり “ライフ” も大切にしていきたい ～家庭・健康・仕事～

娘が小さい頃は絵本を読み聞かせたり、中学生の頃は勉強を教えたりしました。「娘が初めて歩いた瞬間を私が見た」「娘が私の帰りを玄関でピョンピョンしながら待っている」というのも嬉しい思い出の一場面です。現在も「家に帰ると皿洗い」をしますし、週 1～2 回、夕食も用意します。

健康維持管理については、毎日、家から駅までの往復を歩いて 4000 歩。事務局の中でもなるべく歩いて、8000 歩を目指しています。

家では仕事の話をしていないのですが、教育委員会に来て少し経った頃、妻から「今までで初めて、ストレスを感じているように見える」と言われました。やりがいのある職場ですが、一番身近にいる妻には、そう伝わっているようです。

小さな一歩かもしれませんが、事務作業の負担軽減に向けた改善を教育委員会事務局でも確実に進めています。教職員労務課、特別支援教育相談課、国際教育課の「へらす」「やめる」取組を紹介します。

教職員労務課 決裁手続き（諸手当認定等）の見直し（2月から開始）

<p>Before</p> <p>最終決裁者 学校 (承認・決裁)</p>	<p>対象となる手続き</p> <ul style="list-style-type: none"> 扶養親族異動届・扶養控除 住居手当・住居届 給与口座の届出 旅費請求時の経路確認 	<p>年間処理件数(全校合計)</p> <p>約 7,000 件</p>	<p>年間処理件数(1校あたり)</p> <p>約 14 件</p>
<p>After</p> <p>最終決裁者 教育委員会事務局 (承認・決裁)</p> <p>学校での承認・決裁業務を軽減</p>	<p>約 6,000 件</p> <p>約 9,000 件</p> <p>約 417,000 件</p>	<p>約 12 件</p> <p>約 18 件</p> <p>約 820 件</p>	

特別支援教育相談課 提出書類（個別支援学級関係）の見直し

✓ (様式3-2)「個別支援学級編成調査（第1次・第2次）」 **廃止**

Before

教育政策推進課 調査 特別支援教育相談課 調査 教職員人事課

After

教育政策推進課 調査 教職員人事課 調査

活用

別調査のデータ活用により廃止

国際教育課 提出書類（国際教室関係）の見直し

✓ (様式7-3)「外国籍及び外国につながる児童・生徒在籍状況（参考）」 **廃止**

Before

年間3回 5月調査 1月調査 3月調査

After

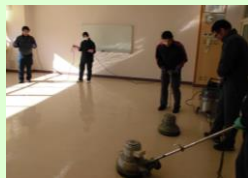
年間2回 5月調査 **廃止** 3月調査

調査回数を削減

働き方改革推進校の一つである洋光台第一中学校では、3つの障害者施設の力を借りて校内清掃を行いました。その取組の様子と、学校での活用の可能性のある「障害者施設からの優先調達」についてお伝えします。

	ポリッシャー（廊下）	ワックスがけ（廊下・階段）	エアコン清掃
作業日・時間	12月25日 9:30~11:30 13:00~15:00	12月26日 9:30~12:00	12月27日 9:50~12:20
従事者数	事業所スタッフ1名・施設利用者5名	事業所スタッフ1名・施設利用者6名	事業所スタッフ2名・施設利用者4名
作業の様子	少しずつポリッシャーの扱いにも慣れ、剥離剤を使用しながら4階1フロア分の作業をしました。	簡単なほき掃除をした後、樹脂ワックスを1棟4フロアの廊下と階段にワックスがけを行いました。	17台の天井吊り下げ式、3台の埋め込み式エアコンのフィルターの水洗いや拭き掃除を行いました。

今回の委託は、学校、事業所双方にメリットのあるものでした。このような連携が学校と地域活動拠点との結び付きを強め、「働き方改革」ととどまらない学校の力になっていきそうです。



障害者施設からの優先調達について

平成25年4月に施行された「障害者優先調達推進法」により、地方公共団体は、物品及び役務の調達にあたって、障害者施設等から優先して調達するよう努めることが規定されました。障害者施設の力を借りて学校の業務を依頼したい場合は、以下にお問い合わせください。

問合せ 健康福祉局障害企画課 横浜市障害者共同受注センター「わーくる」 優先調達の詳細 横浜市HP 優先調達 検索 YCANの場合 ハートオーダー通信 検索

671-3992 306-9910
kf-syuuru@city.yokohama.jp http://www.yokohama-juchuu.jp/

みなさんは「チーム横浜賞」をご存じですか？

この度、「先生の Happy が子どもの笑顔をつくる！ 学校の働き方改革への挑戦」が、平成 30 年度「チーム横浜賞 副市長賞」を受賞しました。

チーム横浜賞とは、市職員の行動規範として定める「横浜市職員行動基準」を実践している特に優れた取組に対して授与されているもので、過去にも学校独自の取組や学校と区局が連携した取組が本賞を受賞しています。

今回の受賞にはどのような価値があるのでしょうか。それは・・・教職員の働き方改革推進の重要性が広く（市長部局他にも）認知され、激励の意味が込められていると思います。引き続き、今回のチーム横浜賞の受賞対象者約 2 万人（全教職員＋教育委員会事務局職員他）とともに、歩みを進めます。



富士山がよく見える冬晴れの 1 月 9 日（水）、柴山文部科学大臣が北山田小学校（都筑区）を視察されました。大臣には、ICT を活用した授業、教科分担による授業やコース別学習などの様子、職員室では、学校が独自に取り入れている「大人のチャイム※」やグループウェアなど、働き方改革の具体的な取組の様子を見ていただきました。学校現場の積極的な取組だけでなく、厳しい現場の実態を大臣に直接お伝えする貴重な機会となりました。 ※16:45 と 18:45 の 2 回、タイマーでセットされた音楽が職員室内に流れ、時間を意識した働き方につなげています。

柴山文部科学大臣のコメントから

「教科担任制や習熟の差があるような教科のコース別学習、新 1 年生への副担任のサポートなどは児童も満足しているだろうし、教員の方々も負担軽減によってストレスが減るという好循環が生まれてくるのかと思う。このような学校における働き方改革や先端の学びの実装をしっかりと国としても加速し、全国展開をしていきたい。話を伺い強く感じたのは、二代続く校長がこのような教育の改革への意識が大変高かったということ。そして教育委員会も非常に前向きに取り組んでおられるということで、大変印象深かった。」



板倉校長の説明を聞く柴山文部科学大臣（中央）

今年度の「教職員の働き方改革フォーラム」は、株式会社ゼン＆アイ・ホールディングの協力を得て開催します。

昨年度に引き続き、中教審の委員でもある妹尾氏の講演や企業での実践から学ぶ「イトーヨーカ堂の働き方の変化」、働き方改革推進校（北山田小、鴨居中）からの実践提案、大学との共同研究など、内容盛り沢山です。各学校でできること、自分の学校だからこそ取り組むべきことなどを見つけるヒントになるような場にできればと思います。

フォーラム終了後には、伊藤研修センターの見学会（史料室や陳列実習室等）の見学会も予定しています。近隣地域からは小学生の職場体験や中学生のキャリア教育支援等でも利用されている施設です。

日時 2月4日（月）14：30～

場所 伊藤研修センター（新横浜）

申込〆切：1月30日（水）



昨年度のフォーラムの様子 @富士ゼロックスR&Dスクエア

※申込みは学校便利帳（教政第 206 号）を参照

(1) 「教職員の働き方改革プラン」達成目標との比較・推移 (平成31年1月9日時点)

項目	目標	平成30年12月実績			
		平均	小学校	中学校	特別支援学校
時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合	0%	6.9% 😊 前月比 -12.1	0.8% 😊 前月比 -13.4	20.8% 😊 前月比 -11.9	0.4% 😊 前月比 -1.5
19 時までに退勤する教職員の割合	70%以上	74.7% 😊 前月比 +7.0	73.5% 😊 前月比 +8.2	73.4% 😊 前月比 +5.0	90.5% 😊 前月比 +3.6

※退勤管理を導入した小・中・義務・特支の教員について、ICカード等による記録から機械的に算出した集計結果。(以下、同様)

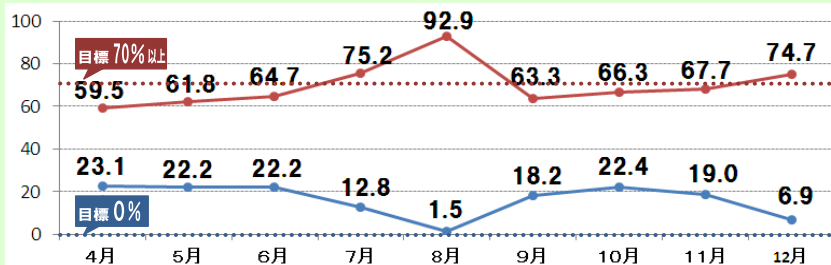


一般的に 12 月は繁忙期と言われますが、どの校種でも「19 時までに退勤する教職員の割合」は目標を達成しました。一方で「80 時間超の割合」は、中学校では、まだまだ 20%を超えています。成績処理に加えて進路関係の業務の影響もありそうです。

達成目標に対する現状値

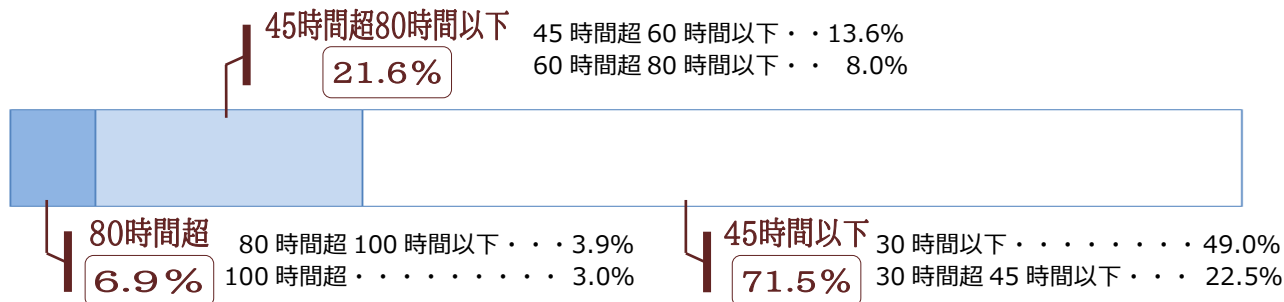
赤線 19 時までに退勤する教職員の割合

青線 時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合



(2) 時間外勤務 (平成30年12月) の詳細

◇時間外勤務の割合 (平均)



◇時間外勤務の割合 (校種別割合)

月あたり時間外勤務	100時間超	80時間超 100時間以下	小計 (80時間超)	60時間超 80時間以下	45時間超 60時間以下	小計 (45時間以下)	30時間超 45時間以下	30時間以下
小学校	0.1%	0.7%	0.8%	4.7%	14.7%	79.8%	27.3%	52.5%
中学校	9.7%	11.1%	20.8%	16.4%	13.7%	49.1%	14.9%	34.3%
特別支援学校	0.1%	0.3%	0.4%	0.6%	2.2%	96.9%	12.9%	84.0%
平均	3.0%	3.9%	6.9%	8.0%	13.6%	71.5%	22.5%	49.0%



「働き方改革プラン」初年度も残り 2 カ月。各学校では様々な取組が進められ、「今まで考えたこともなかった」など、自分事として、働き方改革が進んでいる様子も見え始めています。教職員一人ひとりの Happy が、学校の子供たちは勿論、皆さんのご家族の笑顔にもつながるよう進めていきたいですね。

※本資料の数値については、項目ごとに四捨五入により端数処理を行っているため、合計と内訳の和とが一致しない場合があります。

～先生のHappyが子どもの笑顔をつくる～